断章
旭川のアイヌ語地名研究 ⑰⓪

高橋 基

―大雪山のアイヌ語地名④―

前回は北海道の正確な地図を作成するために、明治十七年に、内務省地理局の高橋不二雄と札幌県地理課の福士成豊が、石狩川の水源を極め、水源の山を「石狩岳」とし、帰途にアンタロマ川(現・安足間川)からヲフタテシケ(現・旭岳)に登頂し、それぞれ緯度・経度を測定し、北海道中央高地の状況を明確にしたことを述べた。

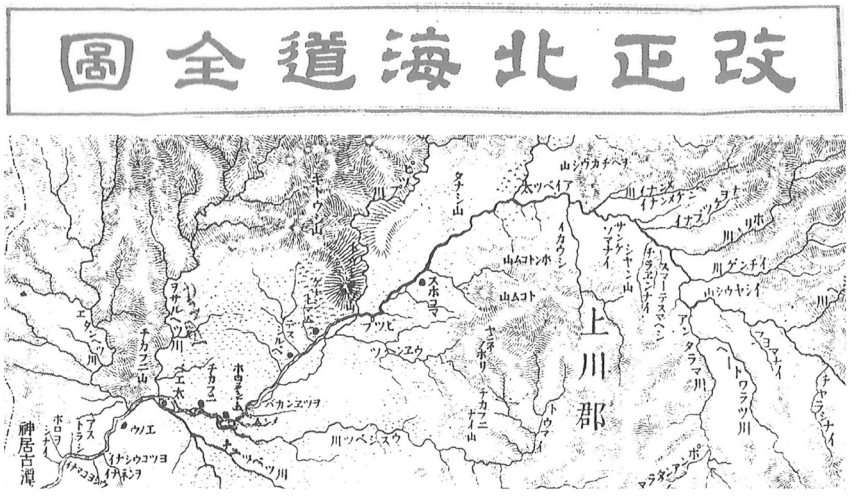
明治二十年、高橋不二雄はその成果を『改正北海道全図』として発刊した。この地図の概要を『北海道大学附属図書館所蔵、北海道関係地図・図類目録』で見てみよう。

『改正北海道全図』――(内務省地理局)・東京・博聞社・明治二十年・銅版・一三六×一七八㎝・縮尺五十万分の一。

他方、高倉新一郎は、『北海道古地図集成』(昭和六十二年、北海道出版企画センター刊行)で、『改正北海道全図』について、次のように記している。

高橋不二雄は、明治十七年に来道し、石狩川を遡って中央山脈の山々を略測し、転じて釧路川の水源を探り、阿寒山に登り、網走川から常呂川に出、更に西別川水源をきわめ、歴舟川から十勝川上流に至り、佐幌岳・クマネシリ等を登って東京に帰り、既成の諸図を参考にして、この地図を作った。これによって従来調査の不十分だった内陸山岳地帯が明らかになったのである。

前回紹介したように、石狩川上流については、札幌県地理課の福士成豊が同行して協力したように、全道的な協力があって、『改正北海道全図』は、完成したのであった。当時としては、最も正確で詳細な地図で、明治十九年に北海道庁が設置され、その北海道庁の規範地図とされたのであった。


改正北海道全圖
上川郡
ポロヌプリ
ポロヌプ
ポロヌプ山
ポロヌプ川
ポロヌプ
ポロヌプ
ポロヌプ